

野の花マットのメンテナンス

有限会社 仲田種苗園

1 草刈

定期的な草刈は、野草の優劣を抑制しますので、導入した野草の種類を長く維持するためには、草刈は必須の作業です。

東京都内では、5月下旬と11月の年2回の草刈をお勧めします。

5月下旬の草刈:比較的花が少ない時期の草刈です。刈り取り後、2から3週間で、景観的に問題がない状態にまで野草は成長します。

11月の草刈:枯れ草が野火により延焼するのを防止します。

2 灌水

特に、乾燥しやすい春や梅雨明け後の夏場はまめな灌水が必要です。

また、乾燥しやすい人工地盤の場合は、自動灌水設備が必要となります。

万一水不足で萎れたたら、すぐに刈ってください。処置が早ければ、野草は復旧します。

3 施肥

野の花マットは熟成したものを出荷するために施肥は原則として必要がありません。

ただし野の花マットの土壌に含まれる栄養分は、灌水によって時間とともに流失しますので、施工後3年目からは、有機質肥料を薄く施すことは効果があります。

4 病虫害防除

野の花マットは生態系を重視して、生物との共生をテーマとしています。

したがって農薬の使用は極力避けたいものです。

野草一般の傾向として、天候によっては、ヨトウムシやアブラムシなどが発生して、葉食される可能性があります。施主の要望などでこれらを駆除する場合には、害虫発生後早期に捕殺するか、生態系に負荷の少ない木酢液などの使用をお勧めします。

標準年間作業スケジュール

作業内容	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
草刈				●						●
除草		●		●		●		●		
施肥	△									
薬剤散布				△		△		△		

△は必要時のみ。

5 除草

つる性植物や異常繁殖する帰化植物などの悪玉雑草は、野の花マットに導入した野草の生育を阻害したり、駆逐する可能性があるので、除草してください。

ポイントは悪玉雑草が小さいうちに除草することです。次のページの写真を参考に、早めに除草してください。特に3月の除草は悪玉雑草が見分けやすいので大事です。

■ 除草対象の主な悪玉雑草



セイタカアワダチソウ(キク科)

葉が硬く、ザラザラする。



オオアレチギク(キク科)

他のキク科より葉が細く、縁の凹凸が無い。



ハキタメギク(キク科)



ヨモギ類(キク科)



メシバ(オヒシバ)(イネ科)

他のイネ科と比べると、横に這う。



ヤハズソウ(マメ科)



ツルマメ(マメ科)などのツル植物



シロツメクサ・アカツメクサ(マメ科)



スキナ(ツクシ)

●これらの悪玉雑草は、単種地被としては有望なものもありますが、他の植物を駆逐する欠点があります。